

# 資料館だより

## CONTENTS

- 1 … TOPICS
- 2 … 展示活動報告／お宝紹介
- 3 … 資料館での雑感／平成24年11月～25年2月移管・寄贈資料
- 4 … 開催案内／資料館業務日誌／平成25年度 資料館スタッフ紹介

### TOPICS

#### 資料館展示室及び収蔵庫に大型除湿機及び排水管が取設されました

このたび、24年度特別事項として、展示室及び収蔵庫に大型除湿機及び排水管が取設されました。

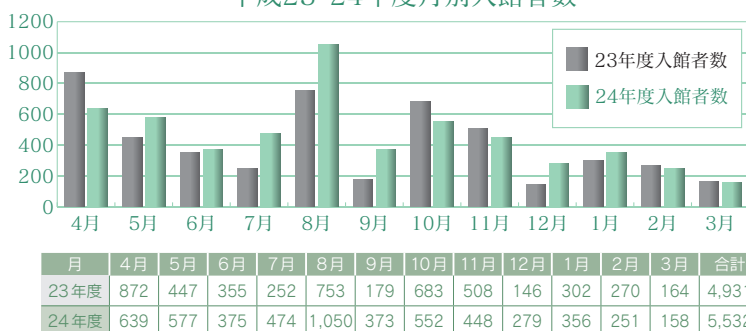
いままでは、展示室及び収蔵庫には一般家庭用除湿機を配置しフル稼働させていました。しかし、ほぼ毎日排水作業を行わなければならない、また、土・日や祝日等の閉館日には除湿機の受水タンクが満水となり除湿機能が働かない状態となることから、この事態の早急な改善を求めていたものです。



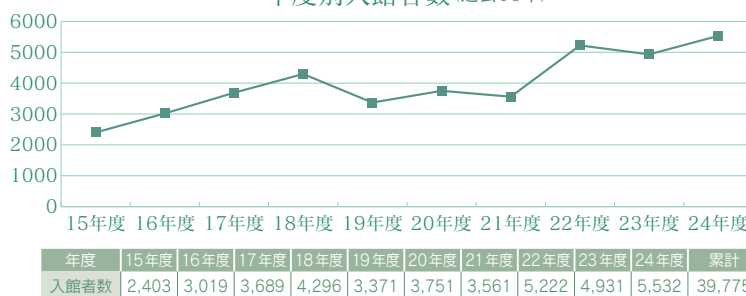
#### 平成24年度の資料館展示室入館者数が最高記録を更新しました

平成24年度の資料館展示室入館者数が5,532人に達し、過去最高記録であった22年度の5,222人を突破しました。これも、皆さんが資料館展示室に足を運んでいただいたおかげと深謝しております。今後とも、資料館展示室がより一層利用されることを目指して頑張りますのでご支援賜りますようお願いいたします。

平成23・24年度月別入館者数



年度別入館者数(過去10年)

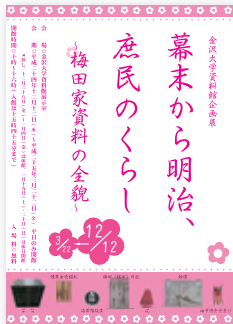


## 展示活動報告

企画展

### 「幕末から明治、庶民のくらし ～梅田家資料の全貌～」

会期 平成24年12月12日～平成25年3月22日 会場 金沢大学資料館展示室



企画展チラシ

本資料館では、平成24年の夏、「金沢大学資料館所蔵資料(モノ)の整備」事業の一つとして、「梅田家資料」の整理を行ないました。「梅田家資料」は、幕末・明治期の庶民の生活を知ることのできる貴重な資料群で、なかでも、幕末・明治期を生きた梅田甚三久の日記(『梅田日記』)は、唯一現存する幕末期の金沢庶民の日記として著名なものです(『梅田日記』は、昭和45(1970)年に本学教授・故若林喜三郎氏によって翻刻され、平成21(2009)年にも、長山直治・中野節子氏の監修で再び翻刻されています)。

また、整理の過程で発見された長久保赤水の「新刻日本輿地路程全図」(寛政3(1791)年、別名「赤水図」)は、日本初の経緯線を使用した地図として学術的にも貴重な資料です。

本企画展では、今回の整理の過程で発見された貴重な品々約90点とパネル約30枚で紹介しました(下記「お宝紹介」コーナーで解説)。



「新刻日本輿地路程全図」を眺める中村学長

## お宝紹介

### 近世から近代に生きた庶民の生活資料 ～梅田家文書～

梅田家文書は、江戸時代末期から昭和期までの激動の時代を、ここ石川の地で生き抜いた一庶民の家族の軌跡である。文書数は787件1,098点。年代は約180年間にわたり、最も古い寛政3(1791)年版の長久保赤水「新刻日本輿地路程全図」から、幕末期の日記や人別送り状、明治期以降の領収書や辞令、証書、手紙、商売鑑札等に至るまで内容も多種多様である。当時、村役人や戸長、地主など地域行政や経済の中心的存在でなかった家の文書としては、量・質ともに充実しており、近世から近代における地域や家の歴史を理解する上で非常に貴重な資料群である。また、一庶民の生活や人生を語る史料という点では、とくに現代に生きる我々の興味や共感をかきたててくれる。この梅田家文書のうち、ここでは江戸時代の史料2件を紹介する。



梅田日記

まず、通称「梅田日記」と呼ばれる4冊の日記がある。これは、幕末期の金沢に住んだ当時の梅田家当主能登屋甚三郎(明治以降、梅田甚三久と改名)による日々の生活の記録である。能登屋甚三郎は、金沢町の算用場で能登地方の農政関係の事務処理に従事していた能登口郡番代手伝という役人であった。日記の内容は、勤務、友人や親戚との交際、年中行事、行楽、衣食住に関することなど個人的な事柄から、全国的な政治・社会の出来事まで多岐にわたり、当時の社会を理解する上で大変貴重な史料となっている。

また、現代の転居届や婚姻届のような機能を持つ「人別送り状」や「宗門送り状」を見れば、梅田家の人々の移動の様子がわかる。

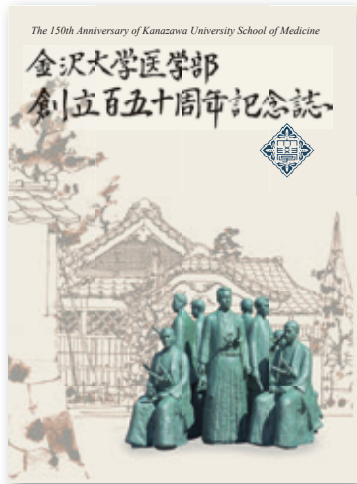


宗門送り状控(文政11年7月～明治5年2月)

例えば、日記の著者である甚三郎の妻しなは、加賀藩士佐々木家の家来佐々木次郎右衛門の妹であったが、いったん甚三郎の親戚にあたる町博斎藤忠平の養女になった後、甚三郎に嫁いでいる。さらに、その後甚三郎と離縁することも送り状からわかる。

金沢大学資料館客員研究員 堀井 美里

金沢大学医学部創立百五十周年記念誌の編纂を了えて



「金沢大学医学部創立百五十周年記念誌」(以下、百五十周年記念誌；平成24年10月23日発行)編纂のため、平成23年5月10日を皮切りに平成24年9月21日まで計10回金沢大学資料館を訪ねた。

偉大な先達によって誠に充実した100年史と130年史がすでに刊行されていたことから、百五十周年記念誌編纂にあたり、それらとの重複を最小限にする一方、過去あまり触れられなかった点には頁を惜しまないこととした。種痘所前史、太平洋戦争、学生運動、未来展望などが後者に属した。この結

果、第一部「通史」は室町時代以来600年余に亘り、記念誌全体としてもA4版500頁近くの大冊となった。

資料館に通った目的の一つは、戦没学生・同窓生についての調査であった。編纂を手伝ってくれた高田知代子さんと、戦前の金澤醫科大學と臨時附属醫學專門部関係書類を1枚1枚丹念にめくる作業をつづけた。すると、ときどき戦死記事が朱書されている学生簿や入学者写影に遭遇した。これらは当時の教職員により書き込まれたものと推察されるが、インクの赤はいまだ色褪せず、流された尊い血があったことを永遠に伝えんとしているかのようであった。

資料館で目にした書類中もっとも忘れがたいのは、「自昭和15年至昭和18年 休学應召に関する書類」に綴られていたつぎの戦死届である(ルビ筆者)

戦死届  
 理学的診療科教室専攻生 半田 勝  
 右ハ昭和拾七年五月廿五日京都師団東部三十七部隊  
ここにこのだん おとどけもうしあげそうろうなり  
 ヨリ戦死ノ内報アリ此之段御届 申上 候 也  
 昭和拾七年六月五日 妻 半田 りよ 印  
 金澤醫科大學長 石坂 伸吉 殿

届けは二つ折り半紙の片面に淋漓とした達筆で記されていた。半紙はなお

白さを保って墨の黒と印の朱を際立たせており、紙面は凜々とした緊迫感をたたえていた。うら若き未亡人となった差出人にとって、これを記すことは、信じがてぬ悲報の衝撃を自らの裡に刻み込む作業となったにちがいない。業半ばにして仆れた無念を亡き夫に代わってひしひしと訴える言外の力が資料に感じられ、胸が詰まった。半田勝専攻生戦死届の写真は、百五十周年記念誌第一部第七章「金沢医科大学の昭和：終戦まで」に図2として掲載されている。

資料館での作業を通じ、貴重な資料がよく整理され良好な状態で保存されていることに感心させられた。資料館を訪ねる毎、館員の方々には候補資料や閲覧スペースを予め用意していただくなど誠に親切にいただいた。百五十周年記念誌が望んだようなでき

ばえとなり、また、予定どおりのスケジュールで上梓されたのは、資料館のお蔭によること大である。古畑徹館長はじめ資料館の皆様は改めて感謝申し上げます。

金沢大学医学部創立百五十周年記念誌編纂委員長・医学系教授 山本 博

平成24年11月～25年2月  
移管・寄贈資料

今期も貴重な資料の数々を寄贈していただきました。当館にて大切に保管し、貴重な資料として活用させていただきます。改めて感謝申し上げます。

(平成24年度第3回資料館委員会(25.03.06 開催)承認)

寄贈

加藤竹雄氏旧蔵四高コレクション(計5点)

- ・ 会員名簿3点(第四高等学校同窓会：大正15年、昭和23年、昭和33年発行)
- ・ 北の都に秋たけて補巻(開学百年記念、四高昭七会文集：1988(昭和63)年発行)
- ・ 三々塾創立九十周年記念号(第四高等学校三々塾：平成2年発行)

加藤昭雄氏(加藤竹雄氏(大正3年2部農科卒業)の御子息)



加藤竹雄氏旧蔵四高コレクション

ライツ社製顕微鏡、糖度計、コンパス、眼科器具、検眼鏡

(計5点)

間山昭義氏

昭和45年度金沢高師同窓会全国大会記念品(酒器)

羽場究氏



ライツ社製顕微鏡ほか



昭和45年度金沢高師同窓会全国大会記念品(酒器)

## 開催案内

### 新歓展

## あなたは何学域？

一人間社会・理工・医薬保健学域の前身校と先人―

会期 平成25年4月10日～平成25年6月21日

会場 金沢大学資料館展示室



資料館は、新入生に対し、金沢大学の各学域を沿革図や前身校・金沢大学出身の著名人などをパネル等で紹介し、自身が入学した学域を身近なものに感じてもらうことを目的に企画しています。

併せて、平成24年度中に収蔵した新資料や再発見資料等も展示します。



広重画「東海道五十三駅続画」〈日本橋〉(部分)(大正7年)

### 企画展

## ウォール・チャート・アーツ (仮題)

会期 平成25年7月上旬～平成25年9月下旬

会場 金沢大学資料館展示室

資料館では、平成23年度から「資料館所蔵資料(モノ)の整備」事業を行っていますが、この過程で、同24年度に開催した企画展「解剖図の美」で展示した資料と同シリーズが再発見されました。

そこで、これらの掛図を中心に展示を企画しています。



水野治三郎画  
「蜘蛛猿ノ図」

## 資料館業務日誌

(平成24年12月～25年3月分)

12.5	平成24年度第9回ヴァーチャル・ミュージアム打合せ
12.12～3.22	企画展「幕末から明治、庶民の暮らし―梅田家資料の全貌―」
12.12	学長企画展視察
12.14	「金沢大学資料館紀要(第8号)」エントリー締切
12.20	法人文書管理に関する説明会(総務部総務課)
1.8	平成24年度第10回ヴァーチャル・ミュージアム打合せ
1.15	「金沢大学資料館紀要(第8号)」原稿提出締切
1.22～1.24	平成24年度アーカイブズ研修II(国立公文書館)
1.23	平成24年度第2回紀要編集委員会(書面付議)
1.24	「資料館だより(第40号)」発行
1.28	収蔵庫(1階・地下)に書架増設
1.31	平成24年度第3回紀要編集委員会(書面付議)
2.6	平成24年度第11回ヴァーチャル・ミュージアム打合せ
3.6	平成24年度第3回資料館委員会
3.12	平成24年度第12回ヴァーチャル・ミュージアム打合せ
3.14～3.29	展示室及び収蔵庫(1階・地下)の除湿機及び排水管取設
3.15	文部科学省長澤学術基盤整備室長来館
3.28	「金沢大学資料館紀要(第8号)」発行

## 平成25年度 資料館スタッフ紹介

### 資料館長

古畑 徹(人間社会研究域歴史言語文化学系教授)

### 資料館委員

古畑 徹(資料館長)

柴田 正良(附属図書館長)

前田 隆(人間社会研究域経済学経営学系教授)

山本 健(医薬保健研究域医学系教授)

東 雅彦(情報部長)

奥野 正幸(理工研究域自然システム学系教授)

### 資料館研究員

笠井 純一(人間社会研究域歴史言語文化学系教授)

小林 信介(人間社会研究域経済学経営学系准教授)

大久保英哲(人間社会研究域学校教育系教授)

鳥居 和代(人間社会研究域学校教育系准教授)

奥野 正幸(理工研究域自然システム学系教授)

### 資料館客員研究員

馬替 敏治(金沢大学名誉教授)

本康 宏史(金沢星稜大学)

宮下 和幸(金沢市立玉川図書館近世史料館)

谷本 宗生(東京大学大学院史料学)

堀井 美里(合同会社AMANE)

沢田 史子(金沢星稜大学)

上田 啓未(デジタルアーキビスト)

ジェレミー・フィリップス(翻訳家)

### 事務職員

井川 俊昭(情報部情報企画課)

笠原 健司(情報部情報企画課)

高出 真妃(情報部情報企画課)

## お知らせ

資料館紀要(第8号)を発行しました。金沢大学資料館ホームページ及び金沢大学学術情報リポジトリKURAで公開しましたので、ぜひ一度ご覧ください。



金沢大学学術情報リポジトリKURA

<http://dspace.lib.kanazawa-u.ac.jp/dspace/handle/2297/34111>

平成24年度の資料館特別展「人物で見る金沢大学の150年―その伝統と創造―」で作成したパネル19点が、石川四高記念文化交流館企画展(1Fレトロ体験室)で、平成25年4月から平成26年3月まで展示されることとなりました。ぜひ一度ご覧ください。

**編集後記** ありがたいことであるが、平成24年度の資料館展示室入館者が大幅アップした。

資料館異動時(平成22年)、資料館長からの宿題は、「入館者数5,000人超え」であった。さい先よく、22年度は目標数を突破したが、23年度はわずかに及ばなかった(22年度5,222人、23年度4,931人)。

これを反省し、展示方法や周知方法、説明会ツアー等々、ひとえに、資料館長初め当館の若いスタッフ2人が「資料館に来てもらう。観てもらう」ために奔走した努力の賜物である。

本学の職員や学生の利用が主である本資料館において、今後ともこの数字を維持していくことは至難の業であるが、「資料館には、なにが求められているのか」を問いながら、一人でも多くの皆さんに来館してもらえるような展示企画を進めていきたい。(井川 俊昭)

## 金沢大学資料館だより 第41号 平成25年5月17日発行



[発行/編集] 金沢大学資料館

〒920-1192 金沢市角間町

TEL 076-264-5215 FAX 076-234-4050

Mail [museum@adm.kanazawa-u.ac.jp](mailto:museum@adm.kanazawa-u.ac.jp)

<http://museum.kanazawa-u.ac.jp>